

「日本語の魅力」

ブルース・L・バートン

1998.1.30 放送

今回は、日本語という言葉について話したいと思います。実は昨年も一回この番組で日本語について話したことがあるのですが、その時も述べましたように、日本語というものは、日本人にとってだけではなく、われわれ在日の外国人にとっても、大変関心の深いものです。

ほとんどの視聴者の皆さんにとっては、日本語は勉強して覚えたものではなく、母国語として自然に覚えたものだろうと思われます。しかし、日本で生まれ育った人は別として、われわれ外国人の場合は、事情が違ってきます。われわれにとっては、日本語はあくまで外国語で、勉強しようというはっきりした意識を持って覚えたものです。

では、外国の人はどうして日本語を勉強し、どのような気持ちや心構えでその学習に挑むのでしょうか？日本国内に住むとなれば、日常生活をおくる上で当然日本語を覚えなければなりません。海外にいるかぎり、日本語は、覚えてそれほど得する外国語だとは思えません。日本語は、英語のような国際共通語でもないし、話せなければ日常生活に困るということもありません。

個人的な話で恐縮ですが、私自身の場合、極めて単純な理由で日本語の勉強を始めました。私は、アメリカは西海岸のオレゴン州の出身ですが、オレゴンというところは、日本に地理的に近いということもあって、最近では日系企業がかなり進出しており、日本からのビジネスマンや留学生が大勢来ています。

しかし、私が若い頃はこうした交流がそれほどなく、地元の人は日本にほとんど興味がありませんでした。私も例外ではなく、大学に入るまでは日本語を勉強しようと思ったことは一度もありませんでした。

ところが、地元のオレゴン大学に入学してすぐ、卒業するには、外国語を一つ履修しなければならぬということが分かりました。普通ならスペイン語やドイツ語の授業を受けるところでしたが、多くの同級生は私とは違ってこうしたヨーロッパの言葉をすでに高校時代から始めていました。彼らと一緒に勉強したところで、私はまったく競争相手になりそうもありません。かえって誰もやっていないような言葉を履修した方がいい成績を取れるのではないか思い、日本語を選んだ訳です。あまり讃められた動機ではないかも知れませんが、とりあえず日本語を選択した理由はこんなものでした。

今もそうですが、その当ても日本語は外国語のなかでも「難しい」と一般に言われていました。外国語の難易度をはかる絶対的な基準があるかどうかは分かりませんが、学習者の母国語に似ているかどうかというのが一つの大きなポイントではないかと思えます。この意味では、確かにわれわれ欧米人にとって、日本語は難しい言語です。その文法や語彙と言い、文字そのものと言い、インド・ヨーロッパの言葉とほとんど類似点がないからで

す。

しかし私の場合、不思議なことにその難しさがかえって魅力でした。特に漢字というものが好きでした。漢字を最初見たときは、「こんな複雑な文字が読める人たちは果たして世のなかにいるのだろうか」と半信半疑でした。私もいつか漢字が難なく読めるようになれば、自分の世界や視野が一変するだろうと思ったものでした。しかし、実はこれは大きな誤解でした。後で気づいたように、言葉や文字はコミュニケーションの手段に過ぎず、大事なものは手段ではなく内容です。しかし当時の私は、言葉を覚えるだけで、ただもう楽しく、難解なパズルを解くような気持ちで日本語の勉強に励んでいました。

これは極端な例だと思いにいるかも知れませんが、実は日本語を勉強している外国人のなかに、私と似たような動機で始めた人が意外に多いのです。私は仕事の関係で、外国人留学生と接触することが多いのですが、先日、授業の合間に欧米圏の留学生たちに日本語の勉強を始めた動機を聞いてみました。

そのクラスのなかで、自が日系米国人であり、自分自身のルーツを知るために日本語の勉強を始めたという人は一人だけで、あとの人たちはこうした出自との関係はありませんでした。彼等が日本語を学ぼうとした動機は様々でしたが、もっとも多かったのは、日本人の友達あるいは恋人がいて、その人の影響で日本語を勉強しようと思ったという答えでした。つまり、個人の日本人に魅力を感じてその人のことを知ろうと思って日本語を勉強した、という訳です。

他にも、色々な答えがありました。将来言語学者になりたいという学生がおりまして、その人は、既にフランス語とスペイン語を習得していて、比較の対象として、東洋の言葉も一つ覚えた方がいいと考え、日本語を選んだそうです。

また、小学生の頃から日本のアニメやゲーム・ソフトが大好きで、その関係でどうしても日本語を覚えたいという学生もいました。この学生は、実は私と同様に、日本の複雑な文字に魅力を感じていたらしくて、難しいからこそ好きだと言っていました。これを聞いて私も多少安心しました。

私の世代では、日本の伝統的な文化や芸術に魅かれて日本語の勉強を始めた人はたくさんいましたが、アニメやゲーム・ソフトに魅かれて始めたという人はまずいませんでした。しかし今はむしろ逆であって、欧米人の間では日本文化の一般的イメージがこの十数年かなり変わってきたということができそうです。

留学生と話して少し意外だったのは、「ビジネスの世界で役に立つから日本語を覚えたい」と答えた人がいなかったことです。私の記憶では、いわゆるバブル経済の最盛期には、こうした打算的な考えで日本語の勉強を始めた学生がかなり多かったのですが、今は、そうした人は見あたりません。学生はちゃんと日本経済や為替レートの推移を見ており、日本語をマスターしてもそう簡単にいい就職につながらないことぐらいはよく分かっています。

しかし逆に言えば、日本を取り巻く状況が近年のように厳しくても、ちゃんと日本語や

日本文化に興味を持ってくれる人がいるという見方もできます。先程紹介しました学生の話からも分かるように、問題は結局、学習者のまわりに日本あるいは日本人と何らかの個人的接点があるか否か、そしてあるとすれば、それが魅力に感じられるか否か、ということにあります。

バブルの時期のように、その接点が経済的なものでも別にかまわないのですが、ある意味では、日本の文化や日本人の人柄に魅力を感じてもらった方が健全ではないでしょうか。私の学生時代にはこうした接点を見つけることが難しかったですが、今は違います。大勢の日本人が毎年旅行者や留学生として海外へ出掛けて行きますし、先ほど述べたようにアニメやゲーム・ソフトに代表される日本の新しい文化も海外で普及しつつあります。知りあいになった日本人や気に入った日本のものを通じて、日本語の勉強を始める外国人が今後増えていくことを期待したいと思います。

では。